

令和 2 年 5 月 17 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03771

研究課題名(和文)通貨から見る西アフリカ地域経済の分断と再統合の可能性の検証：20・21世紀

研究課題名(英文)The Regional Fragmentation and the Reintegration of West African Economy through a Perspective of Currencies:20th and 21th Century

研究代表者

正木 響(MASAKI, Toyomu)

金沢大学・経済学経営学系・教授

研究者番号：30315527

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：21世紀現在、西アフリカでは、通貨統合の方法をめぐる大きな議論が巻き起こっている。この背景には、旧宗主国フランスが、支配地域に導入した貨幣・金融制度の体系を植民地後も、引き継いだことがある。このことが、西アフリカ全体での通貨統合の障害となっている。本研究では、21世紀になって新たに表面化したさまざまな対立とその背景を明らかにした。次に、旧英領諸国に導入された制度と比較しながら旧仏領西アフリカ諸国に導入された制度形成過程について調査をした。ただし、後者については金融のみならず植民地財政や郵便事業なども含めて検証する必要があることが判明した。後者については、継続する科研費研究で再調査を行う。

研究成果の学術的意義や社会的意義

西アフリカで現在話題となっている通貨をめぐる様々な論争の背景を明らかにした。研究成果の一部は、アジア経済研究所が発行する査読誌、『アフリカレポート』に2019年10月に掲載された。それ以降、2020年4月現在まで、本論文の月間ダウンロード数は、毎月120件程度で推移しており、6カ月間、当該雑誌の月間ダウンロードランキングで、常に3位以内に入っている。こうしたことから、アフリカ研究の分野では、一般社会からもそれなりに関心を持たれているようである。

研究成果の概要(英文)：In these days, the methodologies to realize the monetary integration in the ECOWAS region becomes a significant issue. Behind it lies that Francophone West African countries except for Guinea largely inherited the financial system that France introduced in the colonial era. Notably, the "compte d'operation" opened at the French Treasury, which was imperative to peg the CFA franc to the Euro, becomes an obstacle to forming a more extensive monetary integration, including the former British and Portuguese countries. First, this study uncovered the various conflicts over the monetary integration in the ECOWAS region. Next, this research tried to investigate the historical backgrounds of the "compte d'operation" and also reviewed the British system to compare it. However, it turned out that we need further investigation of the French fiscal system itself to obtain effective research outcomes. We will reexamine it by the ongoing Grants-in-Aid for Scientific Research.

研究分野：経済史

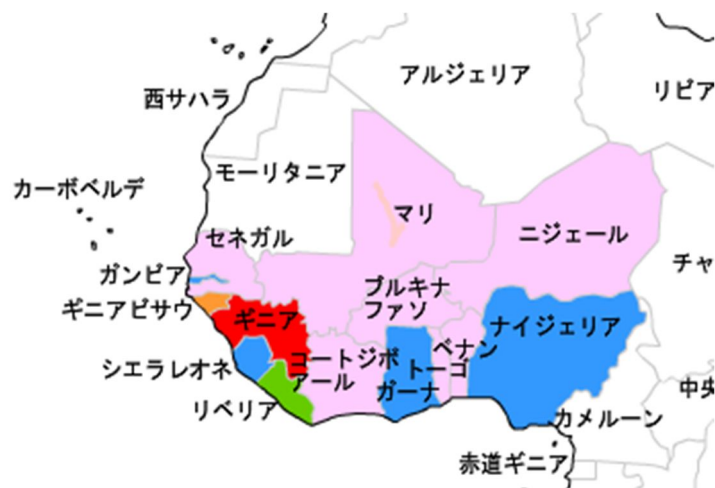
キーワード：CFAフラン ECO ECOWAS UEMOA UMOA 通貨主権 操作勘定 旧仏領西アフリカ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

### 1. 研究開始当初の背景

図1は、現在の西アフリカ諸国経済共同体(以下、ECOWAS)の独立以前の宗主国と現在使用されている通貨の関係を示す。いずれも植民地時代には、それぞれの宗主国通貨にペグされ、リベリアを除いて、スターリング圏、フラン圏、エスクード圏を構成していた。植民地化以前はこうした境界にとらわれることなく、子安貝、綿布、鉄棒が地域内交易で貨幣として利用されていたが、植民地化によって、それぞれが宗主国の通貨圏に組み入れられ、それに伴い地域経済が分断されることとなった。なお、このうち旧フランス領(桃色)主体のUEMOA諸国は、現在、共通通貨CFAフランを発行しており、財政赤字/GDP<70%、インフレ率<3%といった収斂基準を守るよう徹底されている。また、このCFAフランは、ユーロに1ユーロ=655.957CFAフランでペグされており、そのレートをフランス政府が無制限に保証しているところに特徴がある。そのためにCFAフランを発行している西アフリカ諸国中央銀行(BCEAO)は、外貨準備の一定割合をフランス国庫の操作勘定に預けなければならない。これはある意味、「政治的独立後も宗主国に経済的に従属する」ことを意味し、それを嫌ったギニアは、旧仏領でありながらも独立時に独自の通貨を発行することを選択した。

図1 ECOWAS加盟国と旧宗主国の関係および現在のサブリージョン



- |  |   |      |
|--|---|------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● UEMOA加盟国：セネガル、マリ、ブルキナファソ、ニジェール、コートジボワール、トーゴ、ベナン(以上、旧仏領)、ギニアビサウ</li> <li>● 旧仏領でUEMOA非加盟国：ギニア</li> <li>● 旧英領：ナイジェリア、ガーナ、シエラレオネ、ガンビア</li> <li>● 当初より独立国：リベリア</li> <li>● 旧ポルトガル領：ギニアビサウ、カーボベルデ</li> </ul> | } | WAMZ |
|--|---|------|

筆者作成

同様に、旧英領(青色の地域)も、独立後、それぞれが中央銀行を設立して国民通貨を発行することを選択した。ただし、そうであるがゆえに通貨は十分に管理されず、インフレに苦しむ国が少なくない。他方で、CFAフラン圏は低インフレ率ではあるが、金融政策が先進国の通貨ユーロに連動するため、通貨が経済水準に比して強くなりがちであり、また、景気刺激のための財政出動もしにくいいため、旧英領に比べて低成長に陥りがちという問題を抱える。

このような状況の下、2000年、西アフリカはこれら15カ国(ECOWAS圏：色塗り部全体)の通貨を統合する計画を発表した。具体的には、図の旧英領4カ国とギニアおよびリベリアを2003年までに通貨統合(WAMZ)し、次にそれとCFAフラン圏およびカーボベルデを統合するという計画である。しかしながら、WAMZを構成する5カ国いずれも通貨統合に必要な収斂条件を満たせず、計画は4度延期され、2020年を目標にマクロ経済の調整が行われていた。また、WAMZ形成後に予定されているCFAフラン圏との統合も、フランスとCFAフラン圏諸国との間の特異な経済関係(特に操作勘定の制度)が障害となって容易ではないと予測されていた。

### 2. 研究の目的

本研究は、宗主国によって分断された西アフリカの通貨圏が、再統合の方向にすすんでいる

ことを踏まえて、歴史的経緯からその可能性と意義を検証することを目的としている。とりわけ、フラン圏に端を発する UEMOA 地域の特殊な為替制度形成過程と、それとの比較のために、旧英領の制度についても調査をする。

### 3. 研究の方法

本研究では以下の方法で研究を行った。

21 世紀現在、西アフリカで大きな話題となっている通貨統合をめぐる論争の内容及びその背景と ECOWAS レベルの通貨統合実現に向けた動きについて調査を行う。

旧仏領西アフリカについては、フランス銀行、フランス財務省、フランス国立公文書館、フランス国立図書館、セネガルの国立公文書館にて、現在の制度を形成に至る史資料を集めて読み込む。

旧英領西アフリカについては、ケンブリッジ大学や LSE の研究者と研究交流をするとともに、ケンブリッジ大学図書館、英国公文書館で史資料を集め、読み込む。

研究成果を英語でまとめて、国内外の研究集会で発表し、コメントを得て、論文にまとめジャーナルに投稿する。

2019 年 12 月にケンブリッジ大学で国際ワークショップを開き、旧英・仏・葡領それぞれの通貨圏形成過程についての比較検討を行う。

### 4. 研究成果

本研究期間で判明した研究成果は以下になる。

CFA フランの通貨をユーロに固定することの引換に、西アフリカ諸国中央銀行の保有する外貨の 50% をフランス国庫に開かれた操作勘定に預けるという制度が、ECOWAS で計画されていた当初の通貨統合計画の大きな障害となっていることを改めて確認した。

他方で、自由度の高い金融政策をとることができ、21 世紀初頭には高い経済成長を遂げた旧英領西アフリカ諸国では、近年、財政赤字が深刻な問題となりつつあることを明らかにした。

つまり、旧仏領の制度が経済成長を犠牲にしつつも為替レートの安定をもたらす傾向にあるのに対して、旧英領諸国では、好況時には経済バブルに近い現象を創出するが、資源価格の低迷といった外部要因で財政赤字が急増する傾向にあることが改めて確認できた。

ただし、旧英領諸国は、資源価格減価の際には、生産者価格はそのまま、為替レートを調整して輸出競争力を高めることができる。表 1 は 2010 年 5 月と 2020 年 5 月の ECOWAS 主要国通貨の対ドル、ユーロの為替レートである。

表 1 ECOWAS 主要国通貨の対 US ドルおよびユーロレート

		ナイジェリア・ナイラ	ガーナ・セディ	ギニア・フラン	CFA フラン
対 US ドル	2010 年 5 月	151	1.4	5000	550
	2020 年 5 月	390	5.8	9500	600
対ユーロ	2010 年 5 月	190	1.79	6123	655.957
	2020 年 5 月	430	6.48	10331	655.957

筆者作成

つまり、過去 10 年間で、ナイジェリア、ガーナの通貨が対 US ドルで、50% から 75% 程度減価しているのに対して、CFA フランについては、8.3% しか減価していない。対ユーロにおいては、CFA フランは不変で、それ以外の通貨は、概ね対ドルと同じ程度の減価を享受している。このことは、コーヒー・カカオ、原油といった類似の一次産品輸出を行っている CFA フラン圏の生産者を国際市場で不利な立場におくことも意味している。

非 CFA フラン圏の通貨は、というメリットを持つ一方で、という問題を併せ持ち、必ずしもアフリカ経済にとって好ましいことばかりではないはずである。しかしながら、近年、Kako Nubukpo 等、16 世紀に活躍したフランスの知識人エティエンヌ・ド・ラ・ボエシ (Étienne de La Boétie) の言葉「la servitude volontaire (自発的隷従)」を用いて CFA フランを、「貨幣的従属」だと批判するアフリカ人研究者たちの活躍もあり、CFA フラン圏諸国の通貨主権に注目が集まっている。こうしたアフリカ側識者の主張は、SNS 等で広く共有され、近年、アフリカで高まっている 21 世紀のパンアフリカニズムと呼ばれるアフリカの連帯運動や反植民地主義を訴えるムーブメントと一緒に一つ一つのうねりを形成して

いる。本研究では、1960～70年代半ばにかけて西アフリカで展開された論争および運動が2020年になって再び再燃していること、反CFAフラン運動が西アフリカでも急速に高まっていることについても明らかにした。

他方、非CFAフラン圏は、財政赤字の対GDP比、インフレ率などの管理に失敗しており、WAMZ形成のための収斂基準がまったく満たせておらず、宣言通り、2020年にECOを発行するのは極めて困難な状況にあることも明らかとなった。

と という二つの背景の下で、2019年、突如、従来の方法を大きく見直した通貨統合政策案がECOWASより発表された。具体的には、WAMZを形成した後で、それをUEMOAと統合してECOを発行するという従来の二段階型通貨統合を見直し、準備ができたところからECOを発行するという、斬新的な形での通貨統合である。これにより、既に通貨統合をしているCFAフラン圏が、通貨名をCFAフランからECOに換えることで、とりあえずECOWASでECOを発行するという道が開けることになった。

現在、体制の移行期間中であり、新たな政策の評価は行える状況にはないが、予想外の動きもでてきている。この20年の間に、ECOを発行するため様々な準備をしてきたのは、WAMZ諸国、つまり、旧英領西アフリカ諸国およびギニアであったが、旧仏領諸国がCFAフランの名前をECOに変更するというので、これまでECOについては全く関与していなかった仏語圏諸国が事実上、ECO発行の主導権を奪うという理解である。まさに1970年代に、旧仏領とその他の間で展開された主導権争いの再燃である。

上記の動きより、改めて、旧仏領西アフリカの貨幣・金融制度形成過程への検証が重要であることが明らかとなった。別の科研費研究で、19世紀にセネガル銀行が中心となって作られた貨幣・金融制度について研究を行い、これについては概ね明らかにすることができた。また、本研究でも、20世紀に形成された操作勘定についての調査を行ったが、依然としてよくわからない部分があり、これについては継続の科研費でさらに検証を行う予定である。まだ漠然としているが、操作勘定が、フランス銀行ではなく、フランス国庫に開かれているように、金融部門のみならず、フランスの財政制度、特に植民地財政や郵便事業などにも研究対象を広げて、調査検証を行う必要があることが本研究では明らかになった。

これ以外に、20世紀初頭から現在までの西アフリカの通貨圏の変遷と、それを抽象的に理解する論稿 *Credibility, Transaction Costs, and the Number of Monies in an Economic Sphere: A view of difficult transitions from multiple to a single currency in West Africa* を *World Economic History Congress 2018* で発表し、それを発展させて、ワーキングペーパー *Weights of Money, Credibility and Sphere of the Money Circuit: Observations Through a Monetary Evolution in West Africa* としてまとめた。現在、その論稿をさらに発展させて英文ジャーナルに投稿すべく、準備を行っている。

2019年12月にケンブリッジ大学で *Money in West Africa* の国際研究集会を開き、旧英・葡領の20世紀の通貨システムと比較検証する場を持った。

## 参考文献

- Nubukpo, Kako (2007) *Politique monétaire et servitude volontaire: La gestion du franc CFA par la BCEAO, Politique Africaine*, No. 105, 70-84.
- Nubukpo, Kako, Martial Ze Belinga, Bruno Tinel, and Demba Moussa Dmbélé ed. (2016) *Sortir l'Afrique de la servitude monétaire : A qui profite le franc CFA ?* Paris: La Dispute.
- ラ・ボエシ, E.D. (西谷修監修、山形浩嗣訳) 『自発的隷従論』筑摩書房、2013年。
- Masaki, Toyomu (2018) *Weights of Money, Credibility and Sphere of the Money Circuit: Observations Through a Monetary Evolution in West Africa, Discussion Paper Series No.44*, Faculty of Economics and Management, Kanazawa University. Aug. 2018.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 正木響	4. 巻 32
2. 論文標題 セネガル国立文書館紹介	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日仏歴史学会会報	6. 最初と最後の頁 49-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 正木響	4. 巻 57
2. 論文標題 CFAフランからEC0へ？ 西アフリカの共通通貨を巡る動向と展望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 87-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） <a href="https://doi.org/10.24765/africareport.57.0_87">https://doi.org/10.24765/africareport.57.0_87</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Toyomu MASAKI
2. 発表標題 Guinee Cloth Exported to Western Africa Via France from 1815 to 1929: Focusing on Changes in Transit Points and Destinations at the Turn of the Century
3. 学会等名 Africa Economic History Network（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Toyomu MASAKI
2. 発表標題 Weights of Money, Credibility and Sphere of the Money circuit: Observations through a Monetary Evolution in West Africa
3. 学会等名 The 15th Kanazawa seminar on Global Economy
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Toyomu MASAKI
2. 発表標題 Credibility, Transaction Costs, and the Number of Monies in an Economic Sphere: A view of difficult transitions from multiple to a single currency in West Africa
3. 学会等名 World Economic History Congress (MIT, USA) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>正木響 Researchmap  <a href="https://researchmap.jp/read0063355/">https://researchmap.jp/read0063355/</a></p> <p>Masaki Toyomu Researchgate  <a href="https://www.researchgate.net/profile/Masaki_Toyomu">https://www.researchgate.net/profile/Masaki_Toyomu</a></p> <p>Money in West Africa  <a href="https://sites.google.com/view/moneyinwestafrica/">https://sites.google.com/view/moneyinwestafrica/</a></p>
---

6. 研究組織		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)
		備考